

FD Newsletter

第 11 号

長崎純心大学 教育開発・FD 委員会

発行 2023 年 3 月 〒852-8558 長崎市三ツ山町 235 番地 TEL095-846-0084 FAX095-849-1694

目次

- ・教育改善の歩み 2022 1
- ・FD 研修会報告 13
- ・SD 研修会報告 14
- ・教育開発・FD 委員会活動報告 15

教育改善の歩み 2022

教育に関する問題点と組織的改善

文化コミュニケーション学科

改善内容	これまでの経緯
今年度は、第 10 希望まで記入するよう変更した。面接義務を廃止し、スムーズにゼミが決定されるよう、また、各教員の負担を均分するよう工夫した。第 5 希望までに入らなかった学生については、対面での第二選考会を行い、極力、学生の希望を叶える努力をおこなった。	昨年度は、専攻演習のゼミ決定方法を第 8 希望まで記入するように変更し、面接人数を調整するなど、よりスムーズにゼミが決定されるように工夫した。
今年度から、卒論発表会の準備を 4 年生ではなく、3 年生（各ゼミ 2 名ずつ）に担当してもらい、3 年生の卒論への取り組みに 4 年生の卒論発表会が教育効果をもたらすことを期待している。	昨年度、初の卒業生が出るにあたり、卒論の仮提出、副査による指導、卒論発表会、卒論研究収録の作成など一連の行事を効率よく、学生に対する教育効果ので やすいよう調整した。

地域包括支援学科

改善内容	これまでの経緯
<p>後期教務オリエンテーション時に、資格担当者の一覧を配布した。また、各教員のオフィスアワーについても一覧を配布し、あらためて周知を行った。</p>	<p>2022年7月に実施された「学生会と1年生懇談会」において、「3コースあって、取得できる資格も情報あるが、そもそも資格について理解が難しい」、「資格別に問合せ先教員情報(一覧)があるとよい」という意見があった。</p>
<p>後期のキャリアオリエンテーションの際に、一般企業および障害児支援施設で働いている卒業生に講話をしていただいた。</p>	<p>学部での心理学の学びが就職にどのようなつながるか、具体的な例を提示できていない状況があった。</p>

こども教育保育学科

改善内容	これまでの経緯
<p>こども教育保育学科のディプロマポリシーの改定案について、学科会の了承を得ることができた。</p>	<p>学部の新しいディプロマポリシーの考え方が今年度示されたことをふまえ、各学科のディプロマポリシーについてもそれに合わせて改定することが求められていた。今年度の学科会での議論をふまえ、学部に合わせたディプロマポリシーを改定するに至った。</p>
<p>幼稚園免許と小学校免許の両方の取得を考えている学生で、GPAの関係から小学校目指すことを迷っている学生について（小学校免許が取得できないと幼稚園実習は4週間する必要があるため）、幼稚園実習を4週間にするかどうかの決定を、10月末でいったん締め切りとし、その学生は3年次で実施することとした。さらに、それ以降、まだ幼稚園実習を考える学生については幼稚園実習を4年次にすることにした。それにより、手続き上、学生が無理なく安心して幼稚園実習ができるようにシステム上の見直しを行った。</p>	<p>これまでは、幼稚園免許と小学校免許の両方の取得を考えている学生で、GPAの関係から小学校目指すことを迷っている学生については、締め切りについての規定が設けられていなかった。そのため、実習年度になって幼稚園実習の希望を申し出る学生もおり、学生側も十分な心の準備をすることができないまま実習に臨むようなことが見られた。この問題についての解決が、学科において検討されていた。</p>

<p>2023年4月入学生から、保育実習Ⅰを保育所実習Ⅰと施設実習指導Ⅰに分けて科目を設けることにした。それにより、学生ファーストの、保育士養成課程に関する単位取得のシステムが整った。</p>	<p>これまで保育実習指導Ⅰは、その指導内容として保育所実習の指導と施設実習の指導を含み、年次も2～4年にまたがって実施されていた。したがって、保育所実習Ⅰを終えている学生は、施設実習Ⅰも終えないと、保育実習指導の単位は取れていないことになっていた。これまでこのシステムの改善に向けた議論が重ねられてきた。</p>
--	---

教務委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>【オンライン授業実施の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大への対処だけでなく、悪天候時における本学特有の状況への対処としてオンライン授業を積極的に活用した。 ・通勤通学で利用される公共交通機関（長崎バス）の運行計画の変更という外部要因へ対処するためにもオンライン授業実施を促進した。 	<p>悪天候時にキャンパスで授業運営ができない場合、別日に補講を設定していた。</p>
<p>【学年暦の柔軟な運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスの通信環境改善の工事を円滑に進めるため、学年暦後期を柔軟に運用した。 	<p>今年度に限った対応</p>
<p>【NICE キャンパスコーディネート科目運用への協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで実施可能な授業内容について提案した。その結果、新規科目を設定し、本学教員の協力を得て大学間連携を促進した。 	<p>NICE キャンパスを利用する学生は低迷しており、利用促進のための方策が検討課題とされていた。</p>

学生委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>後期より、自動車・バイク通学者に対して、「駐車違反をしないこと。2回目以降の駐車違反については許可を取り消すこと」についての誓約書を提出させることとした。これと、アドバイザーによる指導を組み合わせて、無許可駐車行為の抑制へ取り組んでいく。</p>	<p>これまでS棟裏駐車場において、無許可駐車行為が多発しており、公平性、実質的な駐車スペース確保の観点から問題となっていた。学事課スタッフの方で違反者への指導を行ってきたが、なかなか改善へ向かわない状況であった。</p>
<p>学生駐車場の利便性向上のため、送迎車の運行スケジュールの改善の方向性を検討し、来年度から実施の方向で決定。具体的には、利用者が多い朝と夕の時間帯をそれぞれ1時間、2台体制で送迎を行う時間を延長した。</p>	<p>従来、学生駐車場からの送迎について、朝夕の時間帯は2台体制を取っているが、混むことが多く、長い時間待たされる学生が出る状況が見られた。また、そのこととS棟裏駐車場への無断駐車との関連も考えられ、改善が求められてきた。</p>
<p>S棟裏駐車場を、社会人学生（就業と並行して修学している学生）に開放して、仕事をしながらの通学の利便性を向上した。</p>	<p>以前は、S棟裏駐車場を社会人に開放していたが、最近では解放していなかった。そのため、社会人学生は、職場と大学の間を登下校する際に、時間的ロスが大きく、苦勞を強いる状況が見られた。</p>

キャリア委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>【キャリア支援の遠隔・オンライン実施】 新型コロナ感染防止に配慮しながら各キャリア支援を遠隔（一部対面）で実施した。</p>	<p>委員会の協議を踏まえ、対面のみこだわらず、コロナ禍でも有益な遠隔によるオリエンテーションを実施した。 カウンセリングも昨年に引き続き、遠隔による実施について柔軟に対応した。</p>
<p>【学科別 キャリア支援計画の作成】 各学科の学生の就職活動の動向が異なるため、各学科の学生の就職活動の動きに対応して、必要な情報を必要な時に周知するとして学科別のキャリア支援計画を作成した。</p>	<p>3学科をまとめて、キャリア支援、就職情報等を提供していた。</p>
<p>【履歴書の体裁の変更と無料配布】 本学の履歴書の体裁等を変更し、現在の就職状況に対応した項目とした。</p>	<p>これまでの履歴書の記載内容が現状に沿わないことが考えられた。例えば、電話番号の記載欄がないことや卒論や自己PR、資</p>

<p>また、今まで履歴書について、純心大学生協にて販売をしていたが、次年度の就職活動からは無料でキャリア支援にて配布することとした。</p>	<p>格取得のスペースが狭く、十分に書くことができず、学生の利用頻度が低かった。</p>
<p>【学生の個人情報の保護を行うための就職内定届の提出後の内定先の学内開示に関する承諾の有無の記載】</p> <p>学生の就職先の内定情報については、プライバシーに配慮し、個人情報として非常に重要なものである。</p> <p>社団法人私立大学情報教育協会（平成17年11月）の「教員のための個人情報活用ガイドライン」によれば、学生や卒業生の就職内定や転職等の情報を就職部などに提供することについて、「利用目的を事前に通知し、書面による個人の同意を得て取得する」となっている。</p> <p>上記のことからも学生の個人情報保護の観点から、就職内定届の内定先開示の利用目的の説明、同意を得る文章を追加した。</p>	<p>これまで、就職内定先等については、キャリア委員会で、キャリア委員、キャリア支援職員が確認し、学科等において、就職内定の届け出をしていない学生や就職活動中の学生等を把握し、就職活動への動機付けや支援を行っていた。</p> <p>特に就職内定届を提出した学生に、就職内定先の開示についての利用目的の説明、同意を取ることは行っていなかった。</p>

教育開発・FD委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>① 本学として望むべき入学前教育のあり方について、前期の定例会議を通じて審議を重ね、審議の結果を《学部における「入学前教育・支援」に関する提言》と題した文書にまとめてFD運営委員会に提出した（2022.7.13）。</p>	<p>本学入学予定者（推薦入試等の合格者）を対象に入学前教育と称して実施されるプログラムは、過去にも散発的に行われたことがあるが、必ずしも学部全体として組織的に取り組まれたものではなく、定着もしなかった。本年5月に学部長より本委員会委員長に対し、入学前教育の具体的方法を本委員会において検討するよう依頼があり、それを受けて、左記のとおり提言文書を作成し、委員長が7月の運営委員会の席上、報告を行った。</p> <p>2023年2月現在、各学科、学生委員会、学事課・入試広報課など関係各部署の努力に</p>

	<p>より、現実には、本委員会が提言に盛り込んだ内容（リモート交流座談会、学科別プレ講座ほか）が実施に移されつつあり、成果が期待される。</p>
<p>② 前期及び後期授業の「終講」スケジュールに合わせて、JunshinVision を利用し、本委員会発・全学年の全学生宛て「お知らせ」として授業アンケートへの協力を強く要請するメールを配信することにした（前期終講日の翌日 8/4 付けと後期終講日の翌日 2/6 付けて送信）</p>	<p>本学では、授業アンケートは全科目で実施すること（受講者 10 名未満の授業や専攻演習等、一部の例外を除く）を全学的な方針としているが、従来より、回答者率の低い授業も少なくないことが問題となっていた。</p> <p>昨(2021)年度は、回答者率の低い授業のアンケート結果も有効なデータとして統計処理されてしまう理不尽を解消すべくシステムの改修工事を実施したが、このたびは回答者率そのものの上昇を期待して学生への呼びかけを強化し、「お知らせ」の中で、大学における学びの主体は学生であること、たとえば教員からの指示がなくともアンケートに回答することは学生の責務であること（「授業アンケートへの回答」までが「授業」であること）を強調した。</p>

カトリック委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>例年行っていた、鹿児島純心女子大学との交流会や、宿泊を伴った巡礼等はまだ実行が難しいと判断したが、市内での食事を伴わない程度の活動を実行することにした。本河内のルルド巡礼や、聖コルベ記念館見学を行い、長崎教区主催青年の集いや純心聖母会主催の会等にも参加し、学生たちからは体験を喜ぶ感想が聞かれた。</p> <p>2年間中止していた26聖人巡礼も実施した。</p>	<p>カトリック学生の会はカトリック委員会と連携して大学のカトリック関連行事に関わっている。また会独自で鹿児島純心大学との交流会や、カトリック関連の場所を巡礼する活動を行っているが、ここ2年間は、コロナ感染症対策のため、自粛が続き、ほとんど活動できなかった。そのため、今年度は例年とは形を変えた活動の方法を検討した。</p>

図書委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>入学前教育用教材として作成された『大学生になるみなさんへ』に掲載している「お薦めの新書」の展示を新入生向けに4月に行った。図書館に未所属の新書の追加購入も行った。</p>	<p>2022年度初めての試みであった。</p>
<p>こども教育学科の造形の授業で学生が製作した作品の展示を図書館入り口のギャラリーで長期の展示を行った。学生作品を展示できる場所として活用できた。</p>	<p>前年度も学生の作品などを展示する場所として、図書館の入り口をギャラリーとして活用していた。</p>
<p>4月から電子書籍とOPACを連動させての貸出開始を行った。電子書籍の貸出開始をPRするためのイベントを読書週間(10月27日～11月16日)に開催し、図書館の掲示板などを利用して広報を行った。</p>	<p>前年度末から電子書籍の購入を開始したが学生の利用が少なかった。</p>
<p>今年度も引き続き、図書館利用者アンケートの結果を踏まえて「図書館にあまり行かない」と回答した学生にも届くように様々な展示やイベントを行った。 (展示37回、イベント3回、司書課程学生が作成したブックリストやポップの展示3回)</p>	<p>図書館に来ない学生たちに図書館に関心を持ってもらうような図書館の蔵書を活用した様々な展示やイベントを多数計画した。また参加型のクイズなども企画・実施した。</p>
<p>コンピュータ演習室のパソコン入れ替えに伴い使用可能なパソコンの有効活用として、図書館演習室のパソコンの入れ替えを行った。</p>	<p>2019年3月に同様の入れ替えが行われ、パソコンの再利用を行った。</p>
<p>毎年、新入生に配布する図書館利用案内にOPACやご意見箱へのQRコードを記載した。</p>	<p>新入生に図書館利用案内を配布していたが、あまり利用されてないようだった。</p>
<p>学術文献検索のためのスライドを作成し新入生への図書館利用説明の際に活用した。</p>	<p>図書館利用説明を行う際に統一のフォーマットがなかった。</p>
<p>「純心人文研究」創刊号～22号に掲載された論文の執筆者に登録希望調査をし、登録希望の論文をリポジトリに遡及登録した。</p>	<p>本学紀要「純心人文研究」は23号(2017年発行)からリポジトリに登録を始めたが、それ以前に発行したものは登録されていなかった。</p>
<p>各種団体が発行する紀要を狭隘化の解消と業務の効率化のため、各種団体の紀要リス</p>	<p>各種団体が発行する紀要を長年図書館で所蔵してきた。利用度が低いのに書架に占め</p>

トを作成し図書委員会を通して各学科の教員に提示して必要なものの選別を行った。	る割合が大きく登録や整備、維持管理に時間を割いていた。
カトリック文庫整備の一環として未登録資料を図書館システム情報館への登録作業を行い、OPACでの検索が可能となった。	カトリック文庫の貴重な資料が目録化されておらず、検索ができなかった。
児童文庫内の蔵書整理のため複本の抜き出し作業を行い、資料を探しやすくした。今後は文庫内の書架配置等の見直しもしていく。	児童文庫資料は豊富であるが適正な配架量を超えていて、利用者が資料を探すのに支障をきたしていた。

健康管理委員会

改善内容	これまでの経緯
クラスアドバイザーを中心に、本人、保護者の意向を踏まえながら、学内関係部署との情報共有を行い適切な対応に努めた。	病名未確定で体調不良を頻繁に訴える学生の対応について、学内での情報共有が必要となった。
搬送に携わる職員の人数を明確にするために、記録を残した。また、少ない人数で搬送可能な「車輪付軽量折りたたみ担架」等2台を追加購入し、保健センターと学事課に設置した。	学生が体調不良で倒れる事案の頻発、同時に複数の学生が体調不良を訴える事案があり、保健室への搬送に携わる職員が多く必要となった。また、搬送に携わる人数によらず、より安全な搬送が求められた。
保健室の男性用ベッドを2台とし、女性用と併せ4台を準備した。4月より男子学生のベッド利用が増加、また、同時に4台のベッドを利用する事案もあった。	保健室のベッドは、従来女性用2台、男性用1台で対応してきたが、男子学生の増加により不足が予想された。

実習・インターンシップ支援（教職関係・中高）

改善内容	これまでの経緯
先生方の負担が減った。また、学生にとっても様々な視点から教員採用試験の対策を取ることができ大変有益であった。	専任教員による教員採用試験対策の負担が大きかったため、大学に予算を組んでもらい、外部講師に一部お願いした。

実習・インターンシップ支援（教職関係・小学校）

改善内容	これまでの経緯
<ul style="list-style-type: none"> ・教室の整備によって、班編制を見直すことができた。 ・教室数に合った教員の配置により、深く丁寧な指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教育実習指導の模擬授業指導の方法が固定化していた。
<ul style="list-style-type: none"> ・データ保存することによって、印刷製本費等が削減されるとともに、冊数が不足する事態を防ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験報告書の印刷製本を行い、関係者と受験する3年生に配布していた。

実習・インターンシップ支援（保育・施設関係）

改善内容	これまでの経緯
<p>実習指導 I において、今年度より学生にファイルを配布した。授業中に配布したプリントを毎回綴じることによって、提出日や資料の書き方等を確認できるようにするためである。整理することが難しい学生にとってはこのファイルが役立っていたようである。</p> <p>また、今年度は抗原検査キットのための予算を組み、保育所・施設実習を行う学生に配布できるようにし、巡回訪問する教員にも配布できるようにした。</p> <p>巡回訪問については県内のみ、8月の実習より再開し、2月からは県外も含め通常の訪問を行うにしている。訪問を再開することで、学生の実習の様子が把握でき、学生にとっても利益となることが期待できる。また、各施設の状況をしることもでき、保育士養成について共に考える機会を持つことができると考える。</p> <p>さらに、3月には「実践現場と協働する、より良い保育者養成教育のための意見交換会」を3年ぶりにZoomで再開する予定である。</p>	<p>授業において配布されるプリントがうまく活用されていない様子が伺えたため、改善の必要があった。</p> <p>昨年度までは実習については延期とし、受け入れ可能な新たな施設に依頼をするなどして対応した。</p> <p>2月の実習では大学より無料配布のPCR簡易検査キット（100名）を頂き、不足分は教科費より購入し、実数を控えている学生全員に配布し、対応した。</p> <p>また、巡回訪問に代わる内容として、電話やオンライン、メールによる方法を取り入れた。</p>

国際交流センター

改善内容	これまでの経緯
<p>感染症対策を講じた上で、来年度より、海外からの派遣留学生の受け入れを承認。複数の問い合わせがあったが、結果的に、来年度は、中国・大連大学より1名の留学生を文化コミュニケーション学科で受け入れることが承認された。</p>	<p>国際交流事業の一環として実施してきた、海外協定校（中国、韓国、台湾、ドイツ）からの留学生の受け入れが、コロナ禍で中止を余儀なくされた。</p>
<p>世界情勢等を総合的に勘案した上で、来年度より留学プログラムの再開を承認した。なお、国際化教育を推進する観点から、留学を希望する学生の救済措置として、2023年度に限り、ニュージーランド・マッセイ大学への単位互換留学の募集対象に、文化コミュニケーション学科の現2年生を加えることが承認された。</p>	<p>同じく、本学における姉妹校派遣留学（中国、韓国）、単位互換留学（韓国、ニュージーランド、ドイツ、スペイン）、言語文化海外実習（スペイン、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、メキシコ）の各プログラムが、コロナ禍ですべて中止を余儀なくされた。</p>
<p>後援会規程を見直していただき、全プログラムを対象に渡航費補助を適用していただくよう、後援会理事会に提案することが承認された。</p>	<p>本学学生の派遣留学プログラムのうち、一部に対して、後援会より渡航費を補助していただいているが、規程の施行後あらたに開設されたプログラムについては、適用の対象外であったため、不均衡を是正する必要が生じた。</p>

英語文化センター

改善内容	これまでの経緯
<p>2年ぶりに Junshin Cup を開催した。対象は県内の高校生で、スピーチ部門のみに絞るなど、規模は縮小したが、感染症対策を講じた上で、開催することができた。</p>	<p>高大接続の一環として実施してきた、県内外高校生対象の英語オーラルコミュニケーションコンテスト Junshin Cup が、コロナ禍で中止を余儀なくされた。</p>
<p>江角記念館を会場に、「第45回純心英語教育公開講座」を開催し、県内の教育関係者を中心に40名を超える熱心な参加者を得た。</p>	<p>上記と同様に、地域貢献事業の一環として実施してきた公開講座が、コロナ禍で中止を余儀なくされた。</p>

改善内容	これまでの経緯
<p>南高愛隣会との協議を重ね、調査に関する事前レクチャーをオンラインにて行い、利用者調査は対面での実施ができた。やや学生への情報共有に課題が見られたため、調査終了後のデータ集計の際にはクラスルームを活用し、学生と教員、南高愛隣会の3者の情報共有がスムーズになった。学生は、調査からデータクリーニング、データ集計までの社会調査のプロセスを体験することで教育成果につながった。</p>	<p>これまで、南高愛隣会との利用者調査は、2020年度及び2021年度については新型コロナウイルス対策のため、Zoomを用いて調査を実施したが、2022年度は対面での調査の実施となった。</p>
<p>2022年度の共修授業は、対面形式で行った。また、医学科キャンパスと歯学科キャンパスの二拠点での実施となったため、学事課の協力を得ながら、学生達にアクセス等の諸連絡を事前に伝えることにより、本学から長崎大学にスムーズに移動することができた。また、昨年度に引き続き、対人援助職を志す多くの3年生が参加したため、大学間の大規模多職種連携授業を実施することができた。</p>	<p>2020年度に引き続き、2021年度も新型コロナウイルス対策のために、Zoomを用いた共修授業を実施することになった。</p>
<p>2022年度の地域包括支援実習では、一日、五島市現地での実習を行うことができた。その他の日程では、長崎大学医学部坂本キャンパスでグループワークや講義を行った。全日程、対面形式の実習を実施することができた。</p>	<p>2021年度については、新型コロナウイルス対策のために、五島セミナーではZoomと集会形式の講義の併用で実施することになった。</p>
<p>2022年度からは、1年生から受講可能となったため、1年生～4年生全ての学年の学生が受講した。そのため、先輩と後輩の縦の繋がりを深める機会になった。また、受講者対象のアンケート結果から、「本実習に参加して良かった」という回答や、「本実習を後輩に勧めたい」という回答が多く見られたため、一定の教育効果があったものと考えられる。</p>	<p>2021年度までの地域包括支援実習においては、本学科2年生の受講者が多かった。</p>

特別の配慮を必要とする学生支援チーム

改善内容	これまでの経緯
<p>【稼働式機の設置：教室】 配慮を必要とする学生との面談を通じて、可動式機の必要性を認め、使用教室に設置した。</p>	設置していなかった。
<p>【荷物置きを設置：トイレ】 配慮を必要とする学生との面談を通じて、荷物置きの必要性を認め、共有トイレに設置した。</p>	設置していなかった。
<p>【ロッカーの設置：J棟3階】 配慮を必要とする学生との面談を通じて、縦床式ロッカーの必要性を認め、J棟3階に新規に設置した。</p>	設置していなかった。

2022（令和4）年度FD研修会報告

2022（令和4）年度のFD研修会は、『本学における「教学マネジメント」と「特別な配慮を必要とする学生支援」のあり方を考える』とテーマを掲げ、2023年3月9日（木）、2018年度以来となる対面形式により実施しました。参加者数は教員・職員を併せて75名でした。



オープニングの学長先生挨拶と教育開発・FD委員会報告（9:45~10:05）に続いて、まず、第Ⅰ部「教学マネジメント」（10:05~11:05）においては、学部長松本俊穂先生より〈教学マネジメント指針における学修者本位の教育とは〉と題するご講演をいただきました。さきに中央教育審議会は、「大学教育の質的転換」（2012年答申）を謳い「高等教育のグランドデザイン」（2018年答申）を示したのに続き、2020年1月に大学分科会における審議のまとめというかたちで「教学マネジメント指針」なる文書を公表しました。松本先生のご講演は、これら一連の改革動向の中で強調された「学修者本位の教育」や「学修成果の可視化」、ディプロマポリシー（DP）に基づく教育課程の体系性等に関する解説を中心に、先進事例の紹介も交えながら、本学における「教学マネジメント推進体制」を早急につくり上げる必要があることを一同に呼びかけるものでした。

第Ⅱ部「本学における特別な配慮を必要とする学生支援の現状と課題」は、プログラムを午前（11:05~12:30）と午後（13:30~14:50）に分けて行われました。午前の部では、教育開発・FD委員の田崎みどり先生による企画趣旨等の説明の後、標記のテーマに関して、本学「特別な配慮を必要とする学生支援室」（以下単に支援室）および学事課という2つの部署を代表し、吉本知江子先生・細野康文先生と永友貴之課長より、報告と問題提起をいただきました。支援室からは、本学における支援体制（「配慮申請」から「配慮内容決定」までの基本的な流れ）の説明と対応実績の報告に加え、Q&Aのかたちで、合理的配慮の概念をめぐる3つの問題（「紙面で通知される合理的配慮はそのまま履行しなければならないか」「合理的配慮の内容について、できる・できないの判断は何を基準に行うか」「合理的配慮について当該学生と話し合う時に気をつけることは何か」）につ



の解説がなされました。吉本・細野両先生が特に強調されたのは、当該学生と「建設的な対話」を行いながら「合意形成」を図っていくことの大切さでした。一方、永友課長からは、身体しょうがいのある学生に配慮した本学の設備面の改善は着実に進んでいるものの、いまだ環境づくりは「発展途上」、学事課の支援体制は「綱渡り」の状態であるとの現状認識が示されました。そして、今後の充実のために、例えば高大の連携のあり方などが重要になってくるとの指摘がなされました。

午後の部は、午前中のS205教室からC311教室へと場所を移し、4人1組の小グループをつくって、支援室の先生方にお考えいただいた2つの「架空事例」をもとに、「配慮内容からどのような学生像がイメージできるか」「担当する授業で配慮内容の実施ができるか」「何らかの理由で配慮実施ができない場合、どのような対応が考えられるか」「その他（これまでの経験や感想等）」を自由に話し合う時間としました。大変にぎやかに、どの班でも熱く意見交換がなされ、難しい問題でも同じ職場の仲間どうし知恵を出し合いながら最善の策を見出していこうという気概の醸成につながったのではないかと思います。解説用資料のご用意を含め、このグループワークのために周到なご準備をいただいた細野先生・吉本先生に、本紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。



2022（令和4）年度 SD 研修会報告

教・職協働のSD委員会が主催するSD研修会は、テーマを《第4期中期目標・中期計画の達成に向けて》と設定し、2022年8月24日(水)の10:00～15:30、Zoomによるオンライン形式で開催されました。なお、当日リアルタイムでの参加が諸事情により難しい教職員もいるであろうことに配慮し、録画をオンデマンドで配信し視聴できるようにする期間も設けました（9月中に2週間程度）。参加者数は、リアルタイムでの参加が81名（専任教員43名、専任職員27名、契約又は非常勤職員11名）、録画配信視聴が16名（専任教員8名、中・高関係者8名）でした。また、これら長崎の純心関係者とは別に、姉妹校である鹿児島純心女子大学のスタッフの方が数名、オブザーバーとして参加されました。プログラムは次のとおりです。

1. 学長挨拶
2. 新任教職員紹介 *お一人ずつビデオ通話画面上で自己紹介。
3. 2021年度決算状況について *財務課長による報告と解説。
4. 第4期中期目標・中期計画について *昨年度策定された長崎純心大学2022-2026年度5ヵ年計画の記載内容中ポイントとなる点を各学科長・研究科長及び各課長等から解説し、認識の共有化を図る。
5. 分科会 *Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用して参加者を7つの分科会（テーマ後述）に分け、中期目標・中期計画の達成に向けて必要なことや課題となり得ること等について意見交換を行う。
6. 全体会における分科会報告 *各分科会のファシリテーター役を務めていただいた方から報告。

「2」の財務課長報告は、大学のみならず学園(法人)全体の収支状況や、学生数の減少が経営にもたらす直接的影響について等、参加した教職員全員に危機意識を喚起し、厳しい現状を乗り切るためそれぞれの立場で何ができるかをあらためて考えさせる契機となったと思います。

それはさておき、今回の研修会は、本学の「第4期中期目標・中期計画」に対する教職員の共通理解と関心を高めることを目的としたプログラム「4」以下の内容を、最も中心的な部分として企画されたものでした。この「第4期中期目標・中期計画」に特徴的なことは、まず、「中期戦略目標（5年後にありたい姿）」として、「8割以上の学生がこの大学の教育及び学生生活に満足していると言う大学にすること」を掲げたところにあります。第二は、下に示す7種の「項目」を大きな括りとして、各項目に該当する「中期目標」「中期計画」「年次行動計画(2022, 2023, 2024, 2025, 2026)」がそれぞれ多数書き込まれ、一覧表の形式でまとめられている点です。

「項目」名	盛り込まれた「中期目標」の数	盛り込まれた「中期計画」の数
教育	21の「中期目標」	22の「中期計画」
研究実践（研究環境）	10の「中期目標」	14の「中期計画」
地域貢献	7の「中期目標」	11の「中期計画」
学生支援	7の「中期目標」	7の「中期計画」
学生募集	5の「中期目標」	5の「中期計画」
管理運営	5（大学4・法人1）の「中期目標」	5（大学4・法人1）の「中期計画」
経営基盤	5（大学3・法人2）の「中期目標」	10（大学8・法人2）の「中期計画」

プログラム中「5」の分科会（グループAからグループGまで7グループに分かれる）は上の表の7つの「項目」に対応するもので、参加者には事前にアンケートで入りたいグループの希望を募っておき、各グループにおけるファシリテーターの役を足立耕平（「A 教育」）・三野貴志（「B 研究実践(研究環境)」）・田中珠美（「C 地域貢献」）・池田悦子（「D 学生支援」）・笹栗淳子（「E 学生募集」）・浜口美由紀（「F 管理運営」）・伊藤雅博（「G 経営基盤」）の各氏に依頼しておいた上で、60分間のブレイクアウトミーティングを実施しました。

事後にGoogleフォームを使って行われた参加者アンケートの結果を見ると、中期目標・中期計画の内容理解が促進された半面（「よく理解できた」31%、「どちらかといえば理解できた」60%）、自由記述回答のうちに、計画の円滑な実現を疑問視する声や具体性の欠如を指摘する声、また、論点が多岐に渡りすぎていて話し合いが深まらなかったという指摘も散見され、今回扱われたテーマの難しさがあらためて浮き彫りになりました。5ヵ年計画ということで、年度ごとに遂行状況を点検し、進捗が思わしくなければその原因を分析して、必要なら当初の目標・計画そのものを修正していくことも必要ではないでしょうか。

教育開発・FD委員会 活動報告

2022 年度

■教育開発・FD委員会（自己点検評価委員会と同時開催）

第1回	2022年4月20日	第2回	2022年5月11日
第3回	2022年6月1日	第4回	2022年7月6日
第5回	2022年10月5日	第6回	2022年11月9日
第7回	2022年12月7日	第8回	2023年1月11日
第9回	2023年2月1日		

■学生による授業アンケート

前期 2022年6月6日（月）～9月17日（木）

後期 2022年11月28日（月）～2023年3月10日（金）

■教職員による授業参観

通年で実施

■教職員FD研修会

日時：2023年3月9日（木）9：45～14：50

テーマ：本学における「教学マネジメント」と「特別な配慮を必要とする学生支援」のあり方を考える

【第I部】教学マネジメント

「教学マネジメント指針における学修者本位の教育とは」

【第二部】本学における特別な配慮を必要とする学生支援の現状と課題

- ①「特別な配慮を必要とする学生支援室」からの報告と問題提起
- ②学事課からの報告と問題提起
- ③グループディスカッション

※教職員への事後アンケート実施（Google form）

図書・雑誌の案内

※教育開発推進室所蔵の図書や雑誌の貸出しを希望される方は、図書館で手続きを行ってください。

■定期購読雑誌等

「高等教育研究」日本高等教育学科会編 玉川大学出版部発行

「IDE 現代の高等教育」IDE 大学協会発行

編集後記

本年度もFD Newsletterを公開できる見込みとなりました。年度末の忙しい時期、「教育改善のあゆみ 2022」に原稿をお寄せいただいた各部署の責任者の方々には、特に厚くお礼申し上げます。編集作業を行いながら特に印象的だったことは、どの部署も教育向上のための工夫を真摯に積み重ねていることに加え、特に本年度はカトリック関連の体験行事（カトリック委員会）やJunshin Cup（英語文化センター）、対面形式の共修授業（医療・福祉連携センター）等々、コロナ禍でしばらく中断を余儀なくされていた様々な特色ある取り組みが無事“復活”を遂げたという、喜ばしい報告が目立ったことです。2023年度からは留学プログラムも再開される見通し（国際交流センター）とのことで、活発な人的交流と移動の自由を伴う、本来あるべき学びの姿が大学に戻って来ることを期待したいと思います。

坂本雅彦（教育開発・FD委員会委員長）